令和4年度　自己評価

社会福祉法人わたげのほし
花園こども園

1. 園の教育・保育目標

生き生きと心豊かに遊び、安心して穏やかに過ごすことで、生きる力に溢れた、健康でたくましく、賢い子どもの心身を育む。

2. 本年度に定めた重点的に取り組む目標

○引き続きコロナ禍における、教育・保育、行事の内容や在り方を精査し、子どもたちにとって必要な活動や学びの機会は、手立てを工夫しながら保障していく。
○長期間に渡る感染対策により、子どもたちの心情や成長の変化に注視し、心のケアに努める。
○「子どもが主体」で、何事にも興味関心を持ち、意欲的に取り組み、発想を豊かにする環境作りを心がける。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	取り組み状況	評価
教育・保育活動について	・これまで慣例化していた行事や保育内容を改めて見直すことで、今の子ども達にとって必要な活動が見えてきた。園の基本方針である「遊びの中での学び」という点で、9 月以降行事が続く時期に、自由にやりたい遊びにじっくり取り組む時間を、年長児が確保しづらい現状があったため、時期を入れ替える、内容を変更するなどが今後の課題であり、子ども主体での遊びの発展や発想を豊かにするための保育環境設定に努めていく。 ・0～2 才児クラスでは、少人数ずつ一人ひとりの成長発達に合わせて、丁寧に生活習慣の獲得など進めているため、2 才児クラスの後期になると、「自分でやりたい」という思いで著しい成長がみられた。今後も出来る限り、このような関わりを続けていきたい。また、個別に落ち着いて遊びが継続できるよう、定期的に遊具を見直したり、コーナーに分かれて遊べるよう配慮していく。	A
研修等資質向上の取り組み	・園外研修は、ほとんどリモートとなり、移動時間を取られることがなく、保育に向き合える時間が確保できている。今学びたいテーマが多く、日々の教育・保育活動に生かされているが、全体に伝達する時間がなかなかとれない。 ・教育保育実践勉強会を定期的に開催し、今年度は既存の室内遊具の遊びの提案や、環境設定を見直すなど、より良い遊びの提案、発展を図るため、各々が研鑽を積んでいる。どうしても遊びが偏りがちになりやすいので、他クラスからの視点や助言を取り入れ、互いにスキルアップ出来るよう取り組んでいる。	A

教育環境整備	・子ども主体での遊びの発展を中心に、発想を豊かにするための教育・保育環境設定に努め、子どもの動向をよく観察し、何を準備したら遊びが発展するのかを常に考え、実践を心がけた。しかし、どうしてもブロック遊びなど同じ遊びに偏りがちで、自ら遊びを作り出す、発展させることが、年長児を中心に苦手感があり、なかなか改善が見られなかったため、来年度もさらに工夫していく。 ・未満児クラスでは、同じコーナーに集中してしまいやすい傾向があるため、できるだけ保育教諭は分かれて配置し、少人数で遊べるよう配慮している。 ・後期より、園庭が拡がったことで、伸び伸びとサッカーや鬼ごっこ、乗り物等で遊ぶ姿が見られ、異年齢が一緒になって楽しむ環境が出来つつある。	B
食育の充実	・今年度もまだ、黙食やガードを使用し、楽しくおしゃべりをしながら食事をするという環境ではなく、特に偏食、小食のお子さんは、食の進みが遅かった。 ・感染状況をみながら、年長児のクッキングを数回実施できたことは良かった。やはり、自分たちで作った食事は美味しいと感じるようで、年下のメンバーも喜んで味わっていた。 ・今年度も「ごはんのお話」で、栄養士が 3 歳以上の園児に向けて、「旬の食物クイズ」や「食べ物カルタ」など、手作りの教材で食に興味関心が高まるきっかけづくりを行った。 ・各クラス担任と、栄養士、調理士が参加する検討会で、成長に応じた食器の準備、手掴みからスプーン、箸への移行のタイミングなど、細やかに課題などを話し合い、家庭との協調が不可欠なため、保護者の方にもお伝えし、小食、偏食、アレルギー対応などの改善、徹底を図った。	B
特別支援教育	・前期、後期に一度ずつ、特別支援学校指導員による巡回相談を実施し、集団生活の中で子どもたちが感じる困り感をできるだけ軽減し、自己肯定感を持ち、達成感や充実感を感じながら、意欲的に生活、遊びに取り組むためには、どんな手立てや配慮があるかをアドバイスいただき、実践に努めた。 ・療育に通われている園児に関し、情報共有やそのお子さんに最適な関わりを学ぶため、療育施設へ見学に行ったり、施設職員を受け入れ園での様子を見ていただくなどしながら、お子さんにとってより良い環境作りを心がけた。	A
地域・小学校との交流活動	・西城山小学校 1 年生との交流会に参加し、1年生が準備してくれたお店やさん、ゲームコーナーを年長児が自分たちで回り、楽しく交流させていただき、小学校への期待感が高まっていた。また、卒園児が楽しく仲間と協力して取り組む姿を見ることができ、その後の様子を知る良い機会となった。 ・3月には、年長児が西城山小学校を訪問をさせていただき、給食を食べる様子や、お昼休み、授業を受ける場面まで少し見せてもらえたことで、就学への不安感を減らし、期待感を高められたように思う。 ・引き継ぎは、各小学校の現1年生の担任の先生や、教頭先生等に丁寧に伝達を行うことが出来た。	A

保健・安全管理	・コロナウイルス感染対策のため、園児、保護者、職員共に玄関・入口での検温、消毒や体調記入など管理を行った。 ・内科健診、歯科検診は、後期のみ 1 回実施した。 ・学校薬剤師が定期的な検査を行い、園内の衛生管理を行った。 ・3 歳以上児クラスでは、食事中の感染対策として、黙食や席の固定、パーテーションの設置などを行い、毎食事テーブルメンバーの写真を撮り、拡大予防に努めた。 ・避難訓練を毎月行い、西部自治公民館への全園児一斉避難（災害訓練）を通して、非常用に必要な備蓄用品などの補充を行った。 ・交通安全教室を年 2 回実施し、安全意識を高めると共に、実際の園外活動で交通ルールの確認を行っている。	A
保護者との連携	・コロナ禍で、ゆっくり保護者の方とお話しする時間がとれず、しっかり寄り添えていない部分があると感じている。仕事と育児の両立で悩まれている方も多く、出来るだけ面談等の時間を確保し、信頼関係をより深めていけるよう努力する。 ・少しずつ、人数制限等を行いながらではあるが、保護者参加の行事が実施できるようになってきた。集団の中での成長や姿を見てもらう機会として、感染状況に配慮しながら実施していく。	B

評価結果の表示方法
A＝十分達成されている　B＝達成されている　C＝取り組まれているが、成果が十分でない
D＝取り組みが不十分である

4. 総合的な評価

結果	理由
B	・コロナ禍でまだ様々制限はありつつも、子どもたちにとって必要な活動、行事を見直したり、大切な学びの機会を失うことがないよう、どうしたら実践できるか話し合いながら進めていった。 ・どうしても、行事が重なる時期に、自由に遊べる時間が限られてしまう現状があるため、時期を見直すなど工夫していく。 ・特にはっきりとした、コロナ禍の子どもたちへの影響は分からないが、表情から相手の気持ちを読み取ることに苦手さを感じるお子さんが出てきている。はっきりとした関連は分からないが、マスクの着用などの弊害も考えられるため、今後の様子を注視しながら、対策なども含め考えていく。

5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
・教育・保育活動について	・「子ども主体」の遊び・学びの環境作りや発想を豊かにするための関わり、工夫を行っていく。
・職員の働き方改革	・現状、勤務時間内で指導計画の作成や保育活動準備などを行うことが難しいため、持ち帰っての作業が多く負担となっている。充実して日々教育・保育活動を行うためにも、保護者の方々にも協力を仰ぎながら、見直しを図っていく。